# 第13回「成果の発表(1)」

## 今後のスケジュール

| | |
|---|---|
| 第13回 (2012-07-04) | アウトラインを作成して提出する |
| 第14回 (2012-07-11) | 自分のレポートを作成して、添削を受ける<br>プレゼンテーションの練習をして、その内容を見直す |
| 第15回 (2012-07-18) | 完成したレポートを提出する<br>最終のプレゼンテーションして、内容をお互いに評価する |

## レポートの提出について

- 枚数：表紙1枚＋レポート本文3枚以上
  - 原則として、ワープロで作成すること（文字サイズは 10〜11ポイント）
- 提出期限（必ず 2回とも提出すること）
  - 期限（1回目）：2012年7月11日（水） 9時まで（時間厳守）→添削して返却
  - 期限（2回目）：2012年7月18日（水） 9時まで（時間厳守）
- 提出方法・提出先
  - 印刷した紙（ホッチキス止めしない）＋データのファイル（USBメモリに入れておく）
  - 担当者の研究室 1E302研究室 （もし不在の場合は提出用の箱に入れる）、または、ゼミの時間

## 引用のしかた

「**引用**」とは、レポートや論文のなかで自分の意見を明確にするために、他の文献の意見や考えを紹介することです。

引用で一番注意すべきことは、**どの部分が引用なのか**をわかるように書くことです。**他人の意見を自分の意見のように書く**ことは、他人の文章を盗んで自分のものとして発表する「盗作」、いわゆる「**剽窃**」は絶対に行ってはいけません。

また、引用だけで自分の意見を述べるのではなく、引用は必要最低限にとどめて書くことも大事です。

1. 要約して引用：必要かつ十分な長さで要約する
2. 短い引用（2行以内）：引用文をカギカッコ（「」）でくくる

> 安田（1997）は、人々から組織の関係をとらえるのに「現象から記号（すなわち）モデルを投資するような柔軟性を備えなければならない」と述べている。

3. 長い引用（3行以上）：引用文の前後に1行空けて、左側を2〜3文字分字下げする

> 安田は、『ネットワーク分析』のなかで、次のように述べている（安田 1997）。
>
> 　言葉をかえて言うならば、「行為者の行為を、個人的な属性からではなく、その行為者を取り囲むネットワークによって説明する」ための分析をおこなうのが、ネットワーク分析です。
>
> つまり……

なお、2番目や3番目のような引用では、元の文章と一字一句正確することが大事で、勝手に加筆・訂正してはいけません。

引用するときは必ず、（次に説明する）どの参考文献から引用したかがわかるように、「河野(2009)は」「河野(2009)によれば」や「…である（河野，2009）。」のように著者の名字と発行年（出版年）を書いて、引用元を明らかにします。

## 参考文献の示し方

引用したり参考にした資料・文献があれば、その出典（情報の出所）を「**参考文献**」として書きだしておきます。

なお、参考文献として示すのに必要な情報は、書籍の場合は奥付（巻末の著者・出版社などの情報が書かれた部分）に、論文や記事の場合は余白部分などに書かれています。

1. 単行本（単著、共著）
   - 書式：著者名（出版年）『書名』，出版社．
     - 例：安田雪 (2001)『実践ネットワーク分析』，新曜社．
     - 例：増田直紀・今野紀雄 (2005)『複雑ネットワークの科学』，産業図書．
2. 単行本（編著）
   - 書式：編著者（出版年）『書名』，出版社。
     - 例：佐藤嘉倫・平松闊編 (2005)『ネットワーク・ダイナミクス』，勁草書房．
3. 翻訳書
   - 書式：原著者名（出版年）『書名』，翻訳者名，出版社．
     - 例：アルバート＝ラズロ・バラバシ (2002)『新ネットワーク思考』，青木薫訳，NHK出版．
4. 学術雑誌の論文・記事
   - 書式：著者名（発行年）「論文名・記事タイトル」『雑誌名』，巻・号，ページ．
     - 例：中山洋・大和雅俊・山口正二・玉田和恵・松田稔樹 (2007)「情報ののぞき見を題材とした情報モラル指導教材へのVRの活用に向けた実験的研究」『教育システム情報学会誌』，Vol.24 No.1，pp. 26-34．
5. インターネット上の情報
   - 書式：著者名または発行者名「ウェブページの題名」，URL（参照 閲覧した西暦での日付）．
     - 例：総務省情報通信政策局「平成21年度情報通信白書」，http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h21/index.html（参照 2010年6月9日）．
6. 新聞・雑誌の記事
   - 掲載紙（紙）名（発行年）「記事の題名」発行日時 朝刊・夕刊と面数．
     - 例：朝日新聞 (2011)「大阪駅、iPadでご案内 コンシェルジュ常駐」2011年4月28日 夕刊12面．

参考文献のリストを書くときには、次のことに注意してください。

- 複数の参考文献を書くときは、著者名の名字のアルファベット順に並べる
- 同じ著者で、同じ発行年（出版年）の文献を挙げる場合は、発行年の後に a、bとアルファベットを追記しておく
- 参考文献の示し方には、分野や年代によって書き方の違いがあること（ただし、何を書くかはだいたい同じ）

## 参考文献


- 科学技術振興機構「参考文献の役割と書き方 科学技術情報流通技術基準(SIST)の活用」，http://sist-jst.jp/pdf/SIST_booklet2009.pdf (参照 2011-07-11).
- 藤田哲也編著「大学基礎講座 改増版」，北大路書房(2006.03)
- 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」，北樹出版 (2011.04)
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」，くろしお出版 (2011.03)
- 佐藤望編著，湯川武，横山千晶，近藤明彦「アカデミック・スキルズ」，慶応義塾大学出版会 (2006.10).

- 小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」（講談社現代新書 1603）, 講談社(2002.04).
- 泉忠司「90分でコツがわかる！『論文＆レポート』の書き方」, 青春出版社 (2009.07).